

# 札幌学院大学

商学部 経済学部 人文学部 法学部 社会情報学部 商学部第二部

人間科学科 英語英米文学科 法律学科 社会情報学科 商学科

Sapporo Gakuin University

# 学園広報

1992. 11. 30 No.53

編集・発行 札幌学院大学 企画調査室  
〒069 北海道江別市文京台11番地  
電話 (011) 386-8111

## 歴史とロマンに聴衆魅了 講演と音楽の夕べ

### 明治維新のリーダー達は 世界をどう見たか

#### 第16回学術講演会

第十六回学術講演会「講演 名譽教授・文学博士が、  
と音楽の夕べ」が、十月二日  
午後六時半より札幌市共済ホ  
ールにて開催されました。

当日は、久しぶりに好天気  
に恵まれ、四五〇名の観客の  
熱気で、会場は響くさへ感じ  
られました。今年、経済学  
部の田中彰教授(北海道大学  
の田中彰教授(北海道大学



当日は講演に先立ち、見澤  
学長から本学の沿革、学術講  
演会の由来、日頃のご支援に  
対するお礼の挨拶がなされま  
した。続いて松井安信経済学  
部の中野彰教授(北海道大学  
の田中彰教授(北海道大学

長から、講師田中彰教授の紹  
介がなされた後に講演に入  
り、田中教授は「明治維新の  
ことを話すとすると僅か六十  
分では語りつくせないが、と  
言いつつ、日本が新しい  
国家づくりをめざしたとき  
は、いつも先進国から学びと  
る姿勢をとっているように  
す。古代国家形成期の遣唐使  
や遣唐使はそのひとつでし  
ょう。明治維新のときも例外  
はありません。明治維新とい  
う形では、岩倉使節団とい  
う形で、米欧十二か国を約一  
年十か月かけて歴訪し、政  
治・経済・産業・軍事・社  
会・宗教・文化などあらゆる  
分野を詳細に調査し、鋭い洞  
察を加えています。彼らは、回



陸上競技部  
全日本大学駅伝健闘  
好記録へ着実な歩み

九月末に行われた、第四回北海道大学駅伝において三連  
覇を達成、十一月一日に行われた第二十四回全日本大学駅  
伝に三年連続北海道代表として出場した。

熱田神宮伊勢神宮間、一〇六・八キロメートル八区間  
の戦いに全国八地区の代表二十三校が参加、昨年と同順位  
の二十一位であったが、五時間四十八分とトータルタイム  
では昨年より十三分十二秒縮め、念願の五時間台を達成、  
着実な歩みを見た。

### 父母懇談会開催

去る十月二十四日、札幌学  
院大学後援会並びに関係教職  
員の協力のもと、今年度の父  
母懇談会(札幌圏)が本学に  
開催していった地域を札幌圏に  
含めたため、参加人数も昨  
年より増加した。

	札幌圏	旭川圏	北見圏	合計
対象者数	592人	421人	196人	1,209人
出席者数	75人	97人	60人	232人
出席率	12.7%	23.0%	30.6%	19.2%



今年からは、小樽、岩見  
沢、苫小牧等(これまで独自  
に開催していた地域を札幌圏  
に含めたため、参加人数も  
昨年より増加した。)

新たに札幌圏に含  
まれた地域では、毎  
年の開催が可能とな  
り、この点では改善  
が図られたものと考  
えております。た  
だ、その他の地域で  
の毎年開催や、札幌  
圏での全学年対象  
函館圏を予定しております。

### チンギス・ハーンの都を確認 帯広市民講座



帯広市民講座「講演と音楽の夕べ」は、九  
月四日(内)、帯広市民文化ホール(小ホール)を  
会場に開催された。午前中の天気が曇り  
に、午後四時から雨が降り出したが、それ  
も熱心な聴衆が、約三〇〇名程集まり講演  
と音楽に耳を傾けていた。

見澤学長から本学の沿革、市民講座の由  
来、そして日頃のご支援に対するお礼の挨拶  
がなされた。続いて、鶴丸俊明人文学部助教  
授が、「チンギス・ハーン」その歴史探案か  
ら講演された。

音楽は、「ベートーベンの  
室内楽」と銘打って、札幌交  
響楽団の土田英順氏(チェ  
ロ、東京から藤井一興氏  
(ピアノ)の二人を  
迎えて演奏された。

曲目は、「ユダスマ  
カベウスの主題による  
十二の変奏曲」、  
「チェロソナタ第一  
番」長調作品五の  
一」の二曲、それぞ  
れを二人共息のあつ  
た演奏を披露、終了  
後も盛大な拍手に心  
を込めて演奏した。



昨年よりトータルタイムで13分12秒縮めゴール  
するアンカーの畠山万里君(法学部2年)



### アメフト

#### 東日本学生王座決定戦 東北大学を追い上げる

十一月三日午後一時  
三十分から、東北、北  
海道地区の代表を決め  
る、第七回東日本学生  
アメリカンフットボー  
ル王座決定戦が宮城県  
陸上競技場で行われ  
た。

北海道学生リーグ優  
勝校で二年連続出場  
の本学は、東北学生リ  
グ優勝校で五年連続出  
場の東北大学と対戦、  
七対十四で惜敗したが  
今までの好対戦とな  
った。

### 平成5年度 入学試験日程

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表
法学部法律学科 商学部第二部商学科	1月8日(金)~1月22日(金)	2月8日(月)	本学 東大 青森	2月24日(水)
経済学部経済学科 人文学部英語英米文学科		2月9日(火)		
商学部第一部商学科		2月10日(水)		
人文学部人間科学科 社会情報学部社会情報学科		2月11日(木)		
商学部第二部商学科 (第二期試験)	3月1日(月)~3月8日(月)	3月11日(木)	本学	3月13日(土)

'92就職戦線

「売り手市場」から「厳選主義」に

九三年就職戦線早くもスタート



特別講演  
失敗しないための就職活動方法  
秋田大学経済学部長 伊藤昭一氏

平成四年度の就職戦線は、ほぼ終了した。今年度は前年度とは大きく様変わりし、「超売り手市場」から一転して、採用引き締めによる「厳選主義」になった。求人数は前年度を下回り、内定者報告数も伸び悩みの状態であった。

平成四年度の就職戦線は、ほぼ終了した。今年度は前年度とは大きく様変わりし、「超売り手市場」から一転して、採用引き締めによる「厳選主義」になった。求人数は前年度を下回り、内定者報告数も伸び悩みの状態であった。

就職戦線は、来年度は今年以上に厳しくなるものと予想されており、その対応として、早くも第一回目の就職ガイダンスを実施し、就職情報会社の大手である株式会社ダイヤモンド・ビック社、取締役学校事務部長 伊藤昭一氏を招き、「失敗しないための就職活動方法」と題して特別講演を行い、就職に対する考え方と今後の活動方法について、現三年生へのアドバイスを行った。

道政治史研究への貴重な貢献  
一本学選書第3号刊行



本書の著者船津功氏は、日本近代政治史と北海道史の両域を踏まえて、代表的な地域の運動に詳細に立ち入り、それぞれの特性を具体的に明らかにした、という点にある。本書のユニークさはなによりも、沖繩とともにも他府県と域の運動主体の諸個人とそのエピソードにまで立ち入ったの精緻な分析は、これら諸地域の非常に興味深い地方史的(政治社会的)的視角からの研究ともなっている。

話の題



日本の金融証券システムを研究している留学生  
商学部経済学科4年  
(本庄ゼミ所属)  
王明杰さん  
(ワン ミンジェ)  
「千年友好 一衣帯水」

二十年前の九月二十八日、中国の周恩来総理と日本の田中角栄首相は「共同声明」に署名して、半世紀以上に及んだ両国の戦争状態と対立に終止符をうち、国交正常化を回復しました。この日は中日両国民にとって共通の祝日となったのです。

二十一年という歳月は人類文明史からみれば一瞬にすぎません。しかし、その間に両国政府と人民は共に努力を重ね、政治、経済、文化など各分野にわたって互いの交流と共同事業を推し進め、めざましい成果を上げてきました。

情のある雪国北海道へ来て、札幌学院大学の静かな環境の中で先生達の熱心な指導を受け、勉学の生活を送っています。

多彩な広報活動を  
93年度入試始まる



札幌学院大学キャンパス見学会  
今年度の広報活動の特色は、開設十五周年を迎えた人文学部教員や開設以来三回目の入試を迎える社会情報学部教員および多数の職員が協力を得るなど、従来にならずに

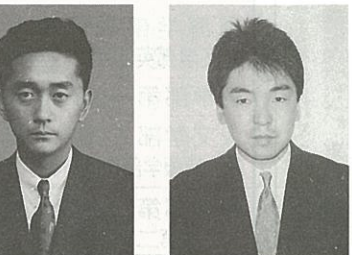
日本会計研究学会  
第51回全国大会  
本学で盛大に開催

「日本会計研究学会」は、会計学教育の現代化をテーマとして、全国的に開催される。本学では、本学で盛大に開催



日本会計研究学会第51回大会  
会場 札幌学院大学

- 教職員人事
- 企画調査室長 石田 勲
  - 兼企画調査課長 片桐 宏
  - 教務事務部長 片桐 宏
  - 教務部事務課長 竹本 隆
  - 学生部事務課長 鳴 雅明
  - 学生部就職課長 西村 栄徳
  - 財務部管理課長 高橋 晃治
  - 財務部入試課長 近藤 直文
  - 教務部事務課長 白鳥 優子
  - 教務部事務課長 山本 勝
  - 教務部事務課長 堀切 利昭
  - 企画調査室企画調査課 早川 真紀



昇格 (平成四年九月一日付)  
教授 嶺野 修  
採用 (平成四年十一月一日付)  
宮田 昌樹

# 肌で感じたU・S・A 10回目を迎えた海外研修



ベントリー大学校舎前

10回目を迎えた今年の海外研修は、去る8月2日から27日までの26日間の日程で行われた。アメリカ・東海岸ポストン市から車で20分の隣町ウォルサム市のベントリー大学を中心とした語学研修と、後半はニューヨークとフロリダのオーランドを中心とした視察研修が行われた。今年の夏休みを海外で思う存分、自分自身を磨いた参加学生11名は、一回りも二回りも大きくなって帰国した様に感じた。

〔参加した目的〕  
若山：昨年参加した、先輩からのアドバイスがありアメリカの大学を体験したい。一度経験しておきたい。このことと大学の先生も経験したかった。  
池田：観光とは別の角度からアメリカ社会を見たかった。  
福士：英語を勉強すること以外に、普通の観光では行けないアメリカの大学を体験したかった。  
細川：少人数の教室で、ほのかな親しみ易い先生で、自由に意見が言えたこと、また、私のタダタダしい英語を真剣に聞いてくれたので感謝した。慣れるにつれて、先生の



若山 大樹さん (人文学部 英語英米文学科4年)



池田 晴世さん (人文学部 英語英米文学科3年)

の言葉が少しずつ聞き取れるようになった。  
池田：日本にいた時のイメージとは異なり、ノートなしで頭で理解を進めて行く、すぐに役に立つ実用的な英語を中心に組まれていたのが苦にならなかった。  
若山：授業は大変良かった。午前中に習ったことが直ぐに午後の課外授業に役立った。ホームワークの中で、ボストンがアメリカ発祥の地である

と、一講時が十分であること、九十分集中すること、非常に難しいことだと思えます。カナダの私のいた大学は五十分で、週三回です。立派な自転車をお持ちです。が趣味は  
池田：私の趣味の一つは自転車。旅行することです。今年の夏も奈良に妻のアマンダと二人で行って来ました。外国も、米国・オーストラリア・ニュージーランド等いろんな所を走りました。冬はスキーも楽しんでいます。もう一つ写真を書くのも趣味です。特にマクロで花を写すのが好きです。

と、二つの家庭ともそれぞれ大切にしている名前を案内してくれました。  
細川：パティ達は、忙しい中、カフェテリアなどで会うたびに目を見て、私の話を真剣に聞いてくれた。私も嬉しく知っている単語を使って一生懸命相手に話した。  
福士：ホームステイの経験はとも良かった。ヨットに乗せてもらったり、日本の普通の家庭では体験出来ないような経験をさせてもらった。

池田：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。  
福士：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。

池田：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。  
福士：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。

池田：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。  
福士：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。

池田：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。  
福士：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。

## イングリッシュを聞いて



オーシャン・ソング・イングリッシュさん  
Ocean Song Inglin 38才  
カナダ プリティツシュ・コロビア州出身

1985年6月 ビクトリア大学卒業  
1990年4月～現在 本学専任講師として、「英語」を担当  
明るくてユーモアのある温厚な性格と積極的で分かり易い授業で学生に好評

日本に来て五年過ぎました。が、日本の印象は、  
イン・私は、カナダにいるとき日本には「コーヒーもパンもない」と聞いてましたので、来日して世界中の食べ物が見られて、驚きを感じました。  
日本に来て感じたこと、は、とても外国人が住みやすい国であるという事です。  
私は札幌に来る前に東京に少し住んでいましたが、札幌

の方が断然気に入っています。日本とカナダの学生との違いは、  
イン・まず、高校生が大いに違いますが、日本の高校生は大学に入学するために勉強が、入試のための勉強をします。大学生になつてしまつたら、あまり勉強しないように感じます。  
カナダの場合は、高校時代の

は、楽しく送り、勉強も強をしない卒業が難しくなっています。みんなの卒業が、カナダの大学生はほとんどが自分で動いて学費を払っています。日本の大学生と違うところだと思えます。  
卒業後の進路は、イン・最近カナダの大学卒業生の多く(五十%)は卒業

後いろいろな経験を求めて海外に六か月から一年ぐらい行くケースがあります。  
これは、地元の良い職場を探すが非常に厳しくなっていることも影響していると思います。ですから、より良い職場の良いポジションを追求するために学歴だけでなく、修士を修得する学生が増えています。  
本学での「英語」教育について感じたことは、  
イン・読むこと、書くことは上手な学生が多いのですが、話すことには苦手なようです。これは本学だけでなく日本の多くの学生に言えることだと思えます。学生は失敗してもよいから、もう一つ英語を話すことをトライしてほしいです。  
システムの違いについては、イン・一番の問題は、クラス

の人数が多すぎることです。多いとどうしても個別指導の時間がとれません。つぎは、

学生の英語力の向上に自ら教材を作成し熱心に学生指導に尽力されている姿を見ると、ネイティブに生きた英語を直接教えてもらえる今の学生が羨ましく感じられました。

この度、ロータリー財団の奨学生として、昨年の八月末より一年間、イギリスで研究する機会を与えられ、レスター大学の大学院生として、久しぶりに学生に戻り、勉強し

て参りました。本学初校外資金による海外留研という事で、いろいろと問題もありましたが、学部長はじめ関係部署の方々の御協力によって無事実現することができました。この場を借りて、感謝の

センターの助手や大学院生は

た。二つの家庭ともそれぞれ大切にしている名前を案内してくれました。

た。二つの家庭ともそれぞれ大切にしている名前を案内してくれました。

## 海外留研を終えて

人文学部講師 菅原 秀二



カナヴァン(Wales)城

この度、ロータリー財団の奨学生として、昨年の八月末より一年間、イギリスで研究する機会を与えられ、レスター大学の大学院生として、久しぶりに学生に戻り、勉強し

た。二つの家庭ともそれぞれ大切にしている名前を案内してくれました。

た。二つの家庭ともそれぞれ大切にしている名前を案内してくれました。

た。二つの家庭ともそれぞれ大切にしている名前を案内してくれました。

## 職員海外研修

### 米国発祥の地を訪れて

総務課付参事 奥野 信夫

時まで交流したりした。  
《感想》は、後輩へのアドバイスを  
福士：帰国後、週二回の英語の授業が楽しく聞き取れる様になった。  
若山：自分のやりたい事はハッキリ主張することが必要です。ニューヨークでは、キャッツが見られてよかった。

細川：出来る限りの事を経験して、自分の持ちたいで、研修内容の濃いものが作れるはずだ。

池田：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。

池田：二回とも子供のいる家庭。二回目は子供に優しい家庭、二回目は子供に厳しい家庭と対照的な家庭を経験できた。

## 日本への関心高まるNZ

教務部 坂井 敏子

九月二十六日から八日間のニュージーランド教育事情視察旅行の機会を得ることが出来ました。

Rosehill Collegeの生徒と一緒に左から2人目が坂井

た。二つの家庭ともそれぞれ大切にしている名前を案内してくれました。



北海道ウィーク開会式にて左から奥野 石田 阿部

# 全国大会へ躍進

## パワーアップする課外活動



道学生選手権V2 - 対北大戦

### ■アメリカンフットボール部 東日本学生王座2年連続出場

昨年、道学生選手権初優勝を成し遂げたアメリカンフットボール部は、今年も素晴らしい活躍をみせてくれた。春季スランボウルで三位という屈辱を味わった後は秋の学生選手権に照準を定め、猛練習の日々が続いた。いよいよ秋、開幕戦から好調なスタートを切り、総合力で勝る本学は四試合を全勝で終え、迎えた最終戦、昨年引き分けに終わった宿敵北海道大学と全勝同士の対決となり、逆転に次ぐ逆転で劇的な勝利をものにし、道学生選手権二連覇を全勝で飾った。これにより二連覇出場となった。第七回東日本学生ア



### ■陸上競技部 全日本大学駅伝 3年連続出場

陸上競技部は、今年もシーズン当初から好調な出足を見せ、札幌小樽間駅伝、北日本選手権と出場し、六月の北海道学生陸上競技選手権大会では、実力を発揮し他大学を圧倒。トラック・フィールド競技において昨年に続き男子は二年連続総合優勝を成し遂げた。これにより、ハンマー投、砲丸投、走幅跳、走高跳、二

メリカンフットボール王座決定戦「サワインボウル」は十一月三日、仙台市宮城東陸上競技場で行われ、昨年同様東北大学と対戦。昨年の雪辱戦となったこの戦いは、前半相手に先制を許し、後半の猛追で巻き返しを計るがあと一歩及ばず、七対十四で惜しくも敗れた。東日本王座の優勝はならなかったが、本学にとっては来年への目標が定まったのではないかと考えられる。シーズンも学生選手権三連覇と東日本王座の奪取に向け、更なるレベルアップに期待したい。

今年で創部五年目を迎えた軟式野球部は、当初十数名と少ない部員が、今年も四十名以上に達し、クラブの成績も急上昇している。今年、北海道にも大学軟式野球連盟が結成され、道内大学では一部二部あわせて十一の大学が加盟した。六月の春のリーグ戦においては三勝二敗とリーグ三位、秋季のリーグ戦についても同じく三位という結果に終わっている。しかし十月、東日本大学軟式野球選手権北海道予

選において、一回戦より順調に勝ち進み、決勝で酪農学園大学を下し、みごと優勝を成し遂げた。これにより十一月中旬、埼玉県戸田市で開催の「東日本軟式野球大会」に出場。東日本の地区予選を勝ち抜いて来た強豪と対戦し、創部五年目にして大きな前進を勝ち取った。軟式野球は近年、接しやすいつい人気に支えられ、競技人口も多い。本学の部員の急増も例外ではなく、それによって選手層も充実し、年々



成長した結果が今シーズンの成績につながったものと考えられる。来年もさらに前進することを願いたい。

軽音楽部は本学の文化会に所属する音楽系サークルのなかでもひととき個性的な活動を行っている。部員も約四十名と文化会の中では比較的に規模が大きく、それだけに個性のある音楽好きのバンドメンバーが集まり日々練習に励んでいる。「軽音楽」と一口に言っても実際のジャンルは幅広く、部員各人が自分の音楽を極めていく。今後クラブの精神的な音楽活動に期待したい。

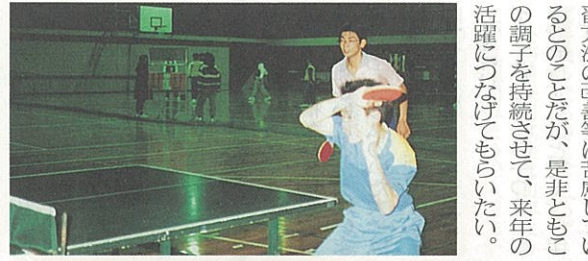


大学祭恒例の模擬店「ライブスペース宝島」

### ■軟式野球部 創部5年で東日本大会初出場

今年で創部五年目を迎えた軟式野球部は、当初十数名と少ない部員が、今年も四十名以上に達し、クラブの成績も急上昇している。今年、北海道にも大学軟式野球連盟が結成され、道内大学では一部二部あわせて十一の大学が加盟した。六月の春のリーグ戦においては三勝二敗とリーグ三位、秋季のリーグ戦についても同じく三位という結果に終わっている。しかし十月、東日本大学軟式野球選手権北海道予

卓球同好会の今年の活躍にはめざましいものがあり、新入部員を多数迎え選手層も充実し、まさに急上昇中のクラブと言える。今年の大会では、全道において五部制、二十以上ある大学チームにおいて、春季リーグで、四部から三部、秋季リーグでは三部から二部へ昇格と好成績を取った。昨年まで五部リーグだったことを考えると、飛躍的前進であると言える。そして春のリーグ優勝により七月、「全日本大学対抗選手権大会」への出場を決め、名古屋に遠征した。また、個人戦の全国大会にも出場者を出すなどレベルが格段に向上



創部25年、伝統を誇る少林寺拳法部

三連覇を達成した。十一月一日、三度目の出場となった名古屋―伊勢神宮間で行われた「第二十四回全日本大学駅伝対校選手権大会」は、八区間・一〇六・八キロを走り抜き、昨年よりもタイムを三分縮め、二十三校中二十一位と大健闘した。順位こそ昨年同様ではあったが、

タイムアップは選手達にとって大きな自信につながったものと思う。全国の壁は厚いが、駅伝チームの着実な成長ぶりが窺える。トラック、フィールド、駅伝と各競技部門で来年度もますます期待が高まる陸上競技部である。

少林寺拳法部は本学創立以来からの伝統のある武術部で、創部二十五周年を迎える。部員は三十名ほどで、道内大学のなかでも選手層の厚さと、その技術の高さで成績も常に上位を占めている。今年の活躍は六月、北海道学生少林寺拳法大会において、有段者の部と段外者の部で、最優秀賞を受賞した。ま

た、七月の北海道大会では三段の部で最優秀賞、初段の部で優秀賞を獲得し、全国大会への出場を果たした。十一月の全日本学生大会では、予選通過者を出すなど、日頃の練習の成果を着実に試合結果に結びつけている。来年度も更に上位を目指して頑張ってもらいたい。

### ■少林寺拳法部 全日本学生少林寺拳法 大会出場

# 企画満載の大学祭

## 第22回大学祭「文京の丘、情熱祭り」



今年も恒例の大学祭が十月八日から四日間の日程で開催された。今年の大学祭の特徴は、例年の模擬店や露店の出店に加え、屋外でのステージ企画、また三人の著名人の講演会等も企画され、秋のキャンパスに賑わいをみせていた。初日、伝統の「オカマコンテスト」を中心に初日祭が屋外ステージで繰り広げられた。続く二日目、元ロッテのプ



井舌さわやか 野球解説者で名球会投手(元ロッテ投手)の村田兆次氏を迎えての体育会特別講演会

口野球投手として名高い村田兆次(野球解説者)氏を迎えて、特別講演会が開催された。この日は平日にもかかわらず多数の聴衆で会場は埋まった。三日目には、笑福亭鶴瓶(タレント)氏を迎えての講演会が企画され、こちらも会場内は超満員で笑いの熱気に包まれていた。最終日はオリンピックマラソン選手の中山竹通(ダイエー)氏を招いての講演が行われ、会場にはファンが多

数詰めかけた。また、後夜祭では学生達がファイヤーストームを叩んでフォークダンスや各種ゲームが盛り上がり、最後に打ち上げ花火で四日間を締めくくった。このほか、期間を通して体育館での巨大迷路やサークルの各種模擬店・展示などそれぞれが好評を博していた。来年度もまた学生実行委員の活躍によって、さらに企画が洗練され、大盛況の「学院祭」となることを願いたい。

年間主な活動は、四月に新入生歓迎コンサートを行い、六月学外で定期演奏会、十月の大学祭では恒例の模擬店(ライブスペース宝島)を出店。今後十二月にも定期演奏会、二月には卒業コンサートが控えている。その他にも学内においてコンサートを随時企画するなど、一年中活動は休む暇がない。今後クラブの精神的な音楽活動に期待したい。